



(美濃加茂)

岐阜・柿田遺跡

かぎだ

- | | |
|---------------|----------------------|
| 所在地 | 岐阜県可児市大字柿田ほか |
| 調査期間 | 一九九九年（平11）五月～二〇〇一年三月 |
| 発掘機関 | （財）岐阜県文化財保護センター |
| 調査担当者 | 笛木幸司・藤岡比呂志・堀 真ほか七名 |
| 遺跡の種類 | 集落跡・水田跡 |
| 遺跡の年代 | 縄文時代～近世 |
| 遺跡及び木簡出土遺構の概要 | |

柿田遺跡は、「柿田条里」と称する、近年まで良好に遺存していた条里地割内に所在する。ここにインターチェンジ建設が予定され、

一九九九年から約八〇〇〇〇m²におよぶ範囲の調査を継続して実施している。

主な遺構は、弥生時代から古墳時代の集落と隣接する流路、古代の溝や流路と条里の坪境に造られた道路所と溝や流路、中世後期以

- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

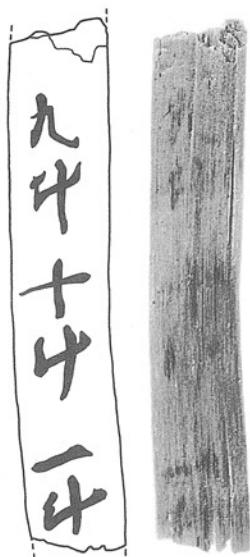
(1) 九斗 十斗 一□
〔斗カ〕

(100)×28×3 081

上下端とも欠失している。

木簡の釈読にあたっては、文化庁の山下信一郎氏のご教示を得、また愛知県埋蔵文化財センターのご協力をいただいた。

(近藤大典)



(近藤大典)

降の水田面などで、各時期の流路からは農耕具や建築部材などの木製品も大量に出土した（本誌第三三号）。

木簡の出土した遺構は、東から西に向かつて流れる流路である。

流路は上下二層に分けられ、上層は主に中世前期、下層は古代に属し、木簡は下層から出土した。流路には灌漑施設の基礎となる木組みが残存しており、木組みの周辺からは木簡を含め、人形・馬形などの木製祭祀具や大量の須恵器が出土している。

- 8 木簡の釈文・内容